

トヨタに公開質問状

開発計画巡り環境団体

トヨタ自動車は豊田市と岡崎市にまたがる山林にテストコースを含む研究開発拠点の設置を計画している問題で、県内外の環境団体の連合体は28日、同社に公開質問状を出した。計画地域では絶滅危惧種の猛禽類サシバなどの生息

が確認されていることから、「計画の撤回や、代替地での開発に見直す考えはないか」などとただしている。質問状を出したのは「トヨタ自動車研究施設による大規模里山自然破壊を阻止する環境NPO全国ネットワーク」。

全国環境保護連盟（神奈川県鎌倉市）代表で、同ネット世話人の岩田薫さんが同日、豊田市のトヨタ本社を訪れて提出した。岩田さんによると、トヨタの計画は、世界的な企業が環境問題にどう取り組むかという観点から全国に関心が広まりつつあり、同ネットには県内外の約50団体が参加しているという。ただ、参加団体の間でも、強い反対意見がある一方、

「開発を契機に里山の保全システムの構築をトヨタに求める」といった考えまで幅があり、今回は、トヨタ側の見解を求めるにとどめている。アセス準備書の内容が決まる前までの回答を求めている。

計画を巡っては、県企業庁が9月、開発面積を約410畝から280畝に減らし、サシバのエサのカエルが住む水田を残すなどの見直し案を発表した。質問状は「こうした修正で、サシバの保護がどう達成されるか客観的な根拠を示して」などと求めている。

トヨタ自動車広報部は「内容を確認し、対応は別途検討する」と話している。（黄徹）

2008年(平成20年)10月29日(水曜日)

月 日 年 日

自然保護団体が質問状

トヨタ・テストコース計画

トヨタ自動車は豊田、岡崎市境の山間地で計画しているテストコースについて、全国の自然保護グループで作る「トヨタ・ストップ全国ネット」（神奈川県鎌倉市、岩田薫世話人）が28日、建設中止を求める公開質問状を同社に提出した。

シバ、ハチクマ、オオタカなど希少なタカ類の繁殖地で、生物多様性が現存する第一級の里山と位置づけ、「計画の全面撤回、あるいは環境への影響が少ない地域への建設計画変更の考えはあるか」など5項目について文書で回答するよう求めている。